

第24回 SDGsとは？

気候変動対策とカーボン・オフセット

SDGsとは2015年9月の国連サミットにて採択された持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals）の略称です。

2030年に向けた持続可能な開発に関する地球規模の優先課題や世界のあるべき姿を明らかにしたもので、国連加盟の全193か国が合意しています。この持続可能な開発目標は、17の項目とその下にある169の細かなターゲットからできています。17の項目には、貧困や健康、教育、水、気候変動、産業など企業にとって関連のある広範な課題を扱っています。

〈SDGsの17の目標〉

- ・ 1 貧困をなくそう
- ・ 2 飢餓をゼロに
- ・ 3 すべての人に健康と福祉を
- ・ 4 質の高い教育をみんなに
- ・ 5 ジェンダー平等を実現しよう
- ・ 6 安全な水とトイレを世界中に
- ・ 7 エネルギーをみんなに、そしてクリーンに
- ・ 8 働きがいも経済成長も
- ・ 9 産業と技術革新の基礎をつくろう
- ・ 10 人や国の不平等をなくそう
- ・ 11 住み続けられるまちづくりを
- ・ 12 つくる責任つかう責任
- ・ 13 気候変動に具体的な対策を
- ・ 14 海の豊かさを守ろう
- ・ 15 陸の豊かさも守ろう
- ・ 16 平和と公正をすべての人に
- ・ 17 パートナリシップで目標を達成しよう

2015年に採択されて以降、国内では2016年に内閣「SDGs推進本部」が設置され、国内戦略をまとめた「SDGs実施指針」が決定されました。また2017年には経団連が企業行動憲章の中にSDGsの達成を組み込みました。

実際に企業がどのようにSDGsに取り組むべきかについては、国連グローバルコンパクトがまとめている“SDG Compass”で具体的な手順を紹介しています。

その中では、まず①SDGsを理解し、②優先課題を特定する、そして③目標を設定し、④経営へ統合し、⑤報告とコミュニケーションを行う、という手順を推奨しています。

企業はこうした地球規模の課題であるSDGsを理解し、自社の経営戦略に取り込むことで、将来のビジネスチャンスを見極めたり自社の企業価値の向上につなげることができます。そのため、徐々にSDGsに関する取り組みも広がり、一般の企業での認知度も上がってきています。

そんな中でも今回は、“13.気候変動に具体的な対策を”について着目したいと思います。

先ほどの②～⑤のステップを気候変動対策の分野にあてはめると、CO₂等の温室効果ガスを把握し、ホットスポット（影響が多い箇所）を特定し、削減目標を設定し、それを実行し、情報を開示するといった一連の取組となります。

この流れは、企業のバリューチェーン全体で考えることが推奨されています。事業活動を自社の範囲だけではなく、サプライチェーン全体を影響領域としてとらえ、サプライヤーと協働して削減活動等に取り組むことが求められています。

バリューチェーン全体での排出量の把握が難しい場合、まずは自社での把握から始めます。自社の範囲としては、事業所での化石燃料の燃焼、電力の使用、また営業車両の燃料使用によるCO₂排出量等が挙げられます。この範囲は、既にISO14001（環境マネジメントシステム）やエコアクション、また省エネ法などにおいて環境指標として把握し減らす取組を実施している企業も多いかと思います。（さらにエネルギーだけでなく水や廃棄物等といった資源を把握管理している企業も多くあります）

その中で具体的に削減目標に向けて実行することが、気候変動へのアクションとなります。例えば、省エネ設備を導入する、生産効率を上げてエネルギー消費量を減らす、再生可能エネルギーを利用する等。こうした活動を経営に組み入れ、定量的に把握を行い情報提供していくことが求められています。

そのうえで、削減活動を実施してもどうしても減らせない場合や、目標を達成しさらにそれ以上を削減する“カーボン・ニュートラル”＝排出ゼロを目指す場合には、“カーボン・オフセット”で埋め合わせをするという手段もあります。

カーボン・オフセットにおいても“知って、減らして、オフセット”というステップが推奨されている通り、まず現状を把握し、削減を行い、どうしても難しい部分に対応し、そして情報提供していく、

ということが大切です。

カーボン・オフセットに活用するクレジット（排出権）には、省エネプロジェクトや再エネプロジェクト、森林吸収プロジェクトなどさまざまな種類、また地域のもの（中部産CO₂クレジット等）があります。こうしたクレジットから地域のクレジットを活用することで、地域の温暖化対策プロジェクトを応援しつつ、自社の削減目標を達成することができます。

SDGs の取組の中でも 13.気候変動への具体的な対策として、自社での排出量の定量的な把握、削減活動（アクション）、そしてカーボン・オフセットを検討してみたいはいかがでしょうか。

カーボン・オフセットは既の実施している活動から、さらに一歩進んだ取り組みとしてご検討していただけるアクションです。

（参考）

GRI・国連グローバルコンパクト

「SDG Compass SDGs の企業行動指針－SDGs を企業はどう活用するか」（グローバルコンパクトネットワークジャパン・地球環境戦略研究機関和訳）

http://ungcjin.org/sdgs/pdf/SDG_COMPASS_Jpn.pdf

【ソフト支援事業実施機関】

株式会社ウェイトボックス

Tel : 052-265-5902 Fax:052-265-5903

E-mail: info@wastebbox.net

中部Jクレ コラム バックナンバー

<http://www.chubu.meti.go.jp/d34j-credit/platform/column/column.html>